



錦小だより

令和6年5月8日発行 第5号 校長 中司 正博

「学級担任」から「教科担任」へ

小学校高学年における教科担任制については、現在、全国の学校や教育委員会において、各学校や地域の実情を踏まえつつ、様々な工夫を凝らしながら導入が進んでいます。本校でも今年度は6年生で教科担任制を実施しています。また4,5年生についても一部導入しています。教科担任制導入の趣旨・目的としては、以下の点があげられています。

- 教材研究の深化等により、高度な学習を含め、教科指導の専門性を持った教師が多様な教材を活用してより熟練した指導を行うことが可能となり授業の質の向上を図る。
- 児童の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図る。
- 小・中学校間の連携による小学校から中学校への円滑な接続（中1ギャップの解消等）を図る。
- 複数教師（学級担任・専科教員）による多面的な児童理解を通じた児童の心の安定に資する。
- 教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校の教育活動の充実に資する。

本校の6年生の体制は、（国語）橋本、（社会）古本、（算数）加藤、（理科）上所、（音楽）岡野、（図工・家庭）小川、（体育）村田、（英語）藤森、（総合・道徳・特活）各担任です。

子どもたちの感想は、「色々な先生と勉強ができて楽しい」「毎時間先生がかわり、メリハリがある」「担任の先生以外の先生とも気軽に話ができる」等です。今後も教科担任制の状況を発信していきます。



支援教育支援コーディネーターについて

学校の体制で、支援教育支援コーディネーターという教員がいます。今年度は土橋、前埜、神寶、牧野が担当です。ひまわり学級に在籍している児童だけでなく、支援を要する児童に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じて支援を行っています。支援教育支援コーディネーター、通常の学級担任、支援学級担任、通級指導教室担当が、子どもの様子を観察してどのようなニーズがあるのか、どのような支援が必要なのかを考えて、場合によっては専門機関と連携して手立てを探ります。そして、保護者の方の理解を得た上で支援を行っています。何かお子様のことでご心配なことがあれば、担任または支援教育支援コーディネーターにご相談下さい。